

# ビキニ被災支援 ニュース

# 室戸の会

2022年7月03日 No.46

発行 ビキニ被災を支援する室戸の会 太平洋核被災支援センター

連絡先 事務局 宿毛市 088-066-1763(山下) 室戸の会 0887-35-8725(濱田)



## <ビキニ被災者訴訟> 高知地裁が証拠保全で土佐清水に出張法廷

6月17日、5人の原告が在住する土佐清水市の中央公民館で、証拠保全として証人尋問が行われました。これは、原告の方たちが証言できなくなる前に証拠として事前に証言を集めておこうとするものです。当日は原告側は8名の弁護士と修習生1名が参加しました。被告代理として4名の弁護士が参加しました。裁判官は3名です。と言っても、証拠保全の場は非公開で、私は控室で待機していました。

終了後に記者会見が行われました。その中では船員の方は、港について船体に灰が付いていたこと、マグロの被爆線量を調べられ、捨てるように言われたこと、船倉の下の方のものは大丈夫だったが、上の方のものは線量の数値が高かったことなどを話されました。また、被告側からの反対尋問では、いつ被災したことを認識したのか。当時作業中に、被災について他の船との連絡を取り合っていたのか。またいつ実験のことを知ったのか。水爆実験当時、何をどこまで見たのか。入院したのはいつだったのかなどの質問を受けたということでした。

## 横山幸吉さんへのインタビュー

幡多地域にお住いの元船員さんにお話を伺う機会はあまりありませんので、「出張法廷」がおこなわれたときに、合わせてお話を伺いました。

- ・中学校の時に、進路として幡多農業に行きたかったけど、担任の教師に長崎に行くように言われた。半分強制だ。別のクラスはそうでもなかったが。長崎ではトンネルのようなところで潜

横山さんは、一緒にいた仲間の何人もが白血病で亡くなっていること、ガンで死んだ人もいることを語り「みな、えい人らばっかりやった、どうして若くして死んだのか、私は水爆実験のせいだと思いますよ。」と訴えました。谷脇さん最後に「私やみんなの願いが届くことを祈っています。」と語られました。

長い間、二つの裁判について、裁判そのものをどこでするのか、高知でするのか東京なのかということと時間をとりましたが、労災を見冷めない決定の取り消しを求める裁判は東京で行い、被爆による損失補償を求める裁判は高知で行うこととなり、双方での裁判が動き始めました。(濱田)



出張法廷の後の記者会見 土佐清水市公民館

水艦の部品を作っていた。8月9日、爆発があって、外に出て行ったら火の海になっていた。人を押しつけて山へ逃げていった。

- ・人が集まっているところで四・五日いたのではないか。友達に、記者が動いていること、それで高知に帰れるのではないかという話を教えてもらって、汽車と船でようよう帰ってきた。広島

で停車した時に、汽車から降りて噴水のようなところで水が出ていたので飲んだ覚えがある。

- 17歳の時室戸の2号良栄丸に乗った。続いて3号良栄丸。21歳の時に乙一の免除をとった。船員同志会が講習をよくやっていた。ある時に高取丸の機関長に「どこかあてがあるのか、うちののってくれんか」と言われたが、その件は舩田さんにすすめて、自分は良栄丸に残った。26歳くらいの時に5号良栄丸に機関長で乗っていた。
- そのあと、ビキニの時(1954年3月)には11号富佐丸に2年くらい乗った。その後浦賀で頼まれて龍歳丸に2航海乗った。100tくらいの船だったと思うが、その時のことが船員手帳に記録がないので、その時の二航海は年金の対象にもっていないので、調べてもらったらありがたい。
- その後、良栄丸に帰って来てくれと言われたが、木屋さんにそっちを頼んだ。その時11号良栄丸は升田政行さんが船頭で日本一の水揚げをやった。
- その時は、自分は、日魯漁業(三浦三崎)の黒潮丸400tに乗った。2.5人前だった。
- 31才の時に11号孝栄丸に乗った。船頭は鬼の孝栄と言われたスケヤン(谷祐利)だった。スケヤンとは新潟にエンジンを見に行ったりした。この時もいろいろあった。若いもんが喧嘩をし

て片腕を大けがしたことがあり、コロンポに入港したことがある。

- 15号良栄に戻ったときのこと。機関故障したときがあり機械をばらして阪神鉄工所で直したが、その時、若いしを、埋め合わせをするからと言って休みなしで働かせたことがあった。しかし直ったら、担当がすぐに船を出せというので、「休みを取るという約束だった」とケツをまくったこともあった。
- 35歳でマグロ船を下りて神戸の「扶桑海運」の貨物船の機関長として55歳まで乗った。
- 良栄丸の船頭をしていた田中廣はこの間亡くなった。酒もそう飲まんし、仕事はできるし兄貴分でえい男だった。室戸は働きやすかった。よかったよ。
- けんど、みんな癌やらで早く死んでいる。白血病も多いと聞いている。

(2022.06.17  
土佐清水市公民館 濱田聞き取り)



※横山さんに、室戸の船員さんで知り合いの人がいないかを見てもらいました。

「ビキニデー in 高知」で、水爆実験被災後の苦境を証言する元漁船員たち (高知県室戸市内)



## 高知・室戸ルポ

1954年のビキニ事件は第五福竜丸だけの問題ではなく、過去の話でもない。この事実は今の日本でどれだけ知られているだろうか。水爆実験で被災した高知県の元漁船員や遺族が救済を求めて司法の場に訴えてから6年。核実験被害者の援助を定めた核兵器禁止条約の第1回締約国会議を控えた先月、高知県室戸市などであった「ビキニデー in 高知」取材し、被災の全容はどう隠蔽されたか、当事者の声はなぜ届かなかったのか、つぶさに知る機会を得た。

(客員特別編集委員・佐田尾信作)

ビキニデー in 高知の室戸フィールドワークに参加してくださった中国新聞の記者が、このことはどうしても記録として残しておきたいと言って特集を組んで報道してくれました。



# 終わらぬビキニ事件

## 水爆実験被災 元漁船員救済ないまま

米国による中部太平洋・マーシャル諸島ビキニ環礁の水爆実験で被災した日本漁船は千隻に及ぶという。しかし翌年には日本政府が早くも「見舞金」だけで対米交渉を打ち切り、静岡県焼津市のマグロ漁船・第五福竜丸以外は黙殺された。

高知県の漁船の被災は実に30年後、幡多高校生ゼミナールが聞き取りするなどして掘り起こされる。さらに30年余り後の2016年には元漁船員らが日本政府に対して国家賠償請求訴訟

### クリック

ビキニ事件と高知 放射能汚染によってマグロを処分した日本漁船は延べ992隻。うち高知県分は延べ270隻に上った。第五福竜丸と同様に「死の灰」を浴びた漁船も存在したが、船員の検査記録は本人に開示されず、厚生省(当時)は1954年12月末までに被災船全ての調査を打ち切った。86年の国会審議で、資料はないと政府は答弁。2014年に一転、日本漁船延べ556隻の検査記録を請求に応じて厚生労働省が開示した。



「ビキニデー in 高知」は昨年2回目を迎えた。近海マグロは縄漁が盛んで今も13隻が操業する室戸市では、参加者が接岸中の漁船内を見学し、船主が「蕃養マグロが話題になる時代だが、私たちが命懸けで漁をしてきたことを知ってほしい」と語るのを聞いた。

かつて核実験に遭遇した漁船は取った魚を廃棄させられ、頑健な漁船員たちが相次ぎ健康不安を訴えた。治療費で家庭は苦境に陥ったが、救済策は全くな

いまだ。シンポジウムでは元漁船員が「当時、国にはもうちよつとやれることがあったのではないか」とつぶやくように証言した。

ビキニ事件直後、同県内でも水爆実験反対の世論が高まっていた証しはある。太平洋核被災支援センター(同県宿毛市)の濱田郁夫さんによると、54年4



現在操業する近海マグロ漁船を見学し、ビキニ事件に思いをはせる参加者たち(室戸市内)

「原字力の平和利用」という名の曰米にまたがる大きな力が当事者の声を押しつぶしたのか。80年代に室戸市の元漁船員が「検査のための血の一滴も採ってもらっていない」と証言したが、第五福竜丸の漁船員以外は健康調査もなかった日本政府の責任は重い。

核兵器禁止条約は第6条で「被害者に対する援助および環境の回復」をうたう。21日にオーストリアで始まる第1回締約国会議は、条文の具体化に向けた議論の第一歩。水爆実験による被災は今なおマーシャル諸島や隣国キリバスなどにも共通する問題だ。現地の被災調査を手がけてきた竹峰誠一郎・明星大教授は呼びかけた。「研究者やジャーナリストさえもすくい上げてこなかった声をちゃんと聞かす」

